

広報

ただみ

3
2024 月号
No. 646
令和6年3月10日

今月の表紙

「大雪像前で披露された只見の空」
大雪像ガルニエ宮の前で、大勢の来場者に
「只見の空」が披露されました。町内の子ども
たちのダンスと目黒誠也さんの歌声が、会場
を盛り上げました。（関連記事：P 2～7）

《特集》	
第51回只見ふるさとの雪まつり ... 2～7	
令和5年度「自然首都・只見」	
学術調査研究成果発表会 ... 8～10	
《News&Flash》 ... 11	
《町の話題》 ... 12～13	



大盛況に終えた雪まつり 昨年を超える来場者！

第51回 只見ふるさと雪まつり

大雪像はガルニ工宮！

来場者29,000人で大盛況！

只見町最大のイベント「第51回只見ふるさとの雪まつり」が、2月10日、11日（9日…前夜祭）に只見線広場で開催され、延べ29,000人が来場しました。今年の大雪像は、オリンピッククイヤーを記念し、開催地であるフランス・パリにあるガルニ工宮（オペラ座）を作製しました。暖冬の影響により規模は縮小したものの、作製には10トンダンプで約400台分の雪が運ばれ、約1か月かけて作られました。完成した大雪像は、9日朝に引き渡し式が行われ、永洸建設株式会社から雪まつり実行委員会に引き渡されました。また、大雪像は前夜祭を含む3日間ともプロジェクションマッピングが映され、来場者を魅了しました。



▲プロジェクションマッピングの前半では、華やかなガルニ工宮が投影されました



会場内には、町内小中学生や高校生、商工会青年部の皆さんなどが、雪像やかまくら、滑り台を作製し、来場者を出迎えました。

イベントでは、只見町出身の大竹涼華さんや只見町ふるさと大使を務める宏菜さんのライブステージや人気ものまね芸人とお笑い芸人による爆笑ライブ、地元団体の伝統芸能発表などが行われ、会場に賑わいが響き渡りました。

ゆきんこ市には19団体(組)が出店しました。「味付けマトンケバブ」や「いわなの唐揚げ」、「手打ちそば」など地元食材を使用したメニューの他、やきとりやいちご飴などの定番メニューが並び、来場者のお腹を満たしました。お食事の他にも、つる細工など伝統工芸や民芸品の販売が行われました。また、ふるさと交流都市の柏市や八十里越街道の交流がある三条市からもご参加いただきました。そして、只見ユネスコエコパークの登録10周年を記念した特別ブースも設置されました。

その他にも受付ブースでは、利き酒の振る舞いなどで来場者をお出迎えしました。



▲町内企業や有志の方などがゆきんこ市を盛り上げました



▲会場内にはふるさと大使と町民の交流スペースも設置されました



鏡開きで雪まつりの開催をお祝いしました

1日目は、鏡開きで開会のお祝いをした後、NHK「おかあさんといっしょ」の「ブンバ・ポーン」の作詞・振り付けなどで知られるたにぞう（谷口國博）さんによる作詞作曲の「只見の空」のダンス披露が行われました。開会式後には、梁取太々神楽が行われ、続いて町内の芸能団体による芸能発表やアーティストのライブが会場を盛り上げました。夜には厄払いの儀やおんべ、プロジェクトンマッピングが行われた他、只見ユネスコエコパーク登録10周年を記念した祈願花火が会場を彩りました。



毎年開会式で披露されている
梁取地区の伝統芸能 梁取太々神楽



雪まつりに来場された
只見と交流都市柏市の太田市長



只見町出身のシンガーソング
ライター大竹涼華さん



只見町ふるさと大使を務める
シンガーソングライター宏菜さん



美しい舞を披露した 只見つくし会、瞳の会、はぎの会



美しい歌声を響かせたコーラスフルール



モンマネで会場の心を驚つかみに
した沙羅&たむたむ



会場に笑いの渦を巻き起こした土佐兄弟



厄男衆による福餅まき

2日目

Second day

イベントを心待ちにする来場者

2日目は、「仮面ライダーガッチャードショー」からスタートし、多くの子どもがステージ前に集まりました。

続いて行われた郷土芸能発表では、小林早乙女踊り保存会による「小林早乙女踊り」が披露されました。

また、今年は東京大衆歌謡楽団によるライブショーが行われ、昭和の懐かしいメロディーが令和の雪まつり会場に響き渡りました。

他にも、グルメインフルエンサーのフォーリンデブはつしー氏を審査員に迎え、おむすびグランプリが開かれ、町民から募集した只見町の食材を使用したオリジナルおむすびのナンバーワンが選ばれました。

夜は、天領只見仙嶽太鼓の皆さんとアフターファイブによるダイナミック琉球が披露され、力強い演奏と舞踊に来場者は息を吞みました。

ショーの終了後には仮面ライダーガッチャードとグータッチ会が行われました



小林早乙女保存会による小林早乙女踊り

おむすびグランプリの審査員を務めたフォーリンデブはつしー



懐かしの名曲で来場者の心を温めた東京大衆歌謡楽団



両日ともステージを盛り上げたあっけらん



天領只見仙嶽太鼓とアフターファイブ



大雪像の作成に携わられた皆さん

開会式でお披露目された
J-POWERのマスコット
キャラ「ナームりん」



前夜祭のカラオケ大会は小学生も参加しました



雪まつりの開会式は晴天に恵まれ、多くの人が来場されました



雪の滑り台で
遊ぶ子どもたち



伝統文化「火の用心」も飾られました



ゲリラパフォーマンスで来場者を楽しませるあつけらん



薪をどれだけ高く積み上げるかを競う
新イベント「ファイヤーウッドタワー」



長蛇の列ができる人気イベント「雪玉ストラックアウト」

只見ふるさとの雪まつり in 永楽台 開催！

「只見ふるさとの雪まつり in 永楽台」が、ふるさと交流都市千葉県柏市の永楽台近隣公園で2月17日に開催されました。これは、永楽台地域と只見町のふるさと交流40周年と柏市制施行70周年を記念し開かれました。

会場には只見町から運び込まれた雪で、ソリ乗り場と雪山を模したかまくらが作製され、約700人が来場し、雪遊びを楽しみました。



▲ソリ遊びをする子ども



▲雪山に登る子どもたち



ご来場いただいた皆様、
ご協力いただいた皆様、
ありがとうございました！

令和5年度「自然首都・只見」 学術調査研究成果発表会

令和5年度「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会が1月28日に只見公民館で開催され、町の助成を受けて調査研究を行った5グループの研究者がその成果を発表しました。町内外から43人の聴講者が集まり、発表後は、活発な質疑応答も行われました。各調査研究の概要を紹介します。



▲ 満席の会場の様子



▲ 石井 康人氏



▲ 深野直孝氏、村上弘章氏、
片山知史氏



▲ 森口喜成氏



▲ 大橋 慎太郎氏



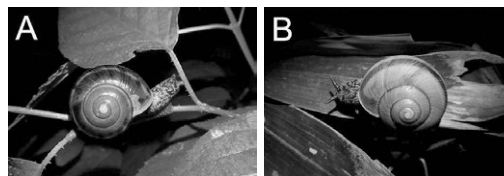
▲ 鈴木海都氏(オンライン)

「モザイク植生は動物進化のゆりかご： 只見町の陸産貝類を例として」

石井 康人（東北大学理学部）

調査研究の背景と目的

只見地域にはアイヅマイマイとよばれる右巻きのカタツムリが生息することが知られていますが、これまでほとんど研究がなされておらず、近縁な種や由来などが明らかにされていませんでした。また、只見町にどのようなカタツムリの仲間（ナメクジなどを含む）が生息しているのかもあまり調査されていませんでした。そこで、只見町に生息するカタツムリの種類を調査するとともに、アイヅマイマイの進化的起源について調べました。



▲ 右巻き(A)と左巻き(B)のカタツムリ

わかったこと

本調査で約10種のカタツムリが確認されました。このうち、ハナタテヤマナメクジとオオコウラナメクジの2種は、福島県西部で初記録でした。

ほかの地域では確認されていないナメクジが確認されたことから、只見町は独自のカタツムリの種構成を有すると考えられます。特に、オオコウラナメクジは全国的にも希少な種であることから、貴重な記録です。

遺伝子解析の結果、アイヅマイマイは福島県東部ではなく、新潟県の集団に近縁であることがわかりました。さらに詳細な遺伝子解析の結果から右巻きが左巻きから出現した年代は現在の日本列島が形成される以前の約3500万年前と推定されました。当時の環境などの条件がどのようにこの進化に関わったのかの詳細は今後の課題です。

「『只見町のどこに・どのような魚がいるのか?』を 環境DNAで読み解く」

深野 直孝、村上 弘章、片山 知史（東北大院農）
春本 宜範（アクアマリンふくしま）

調査研究の背景と目的

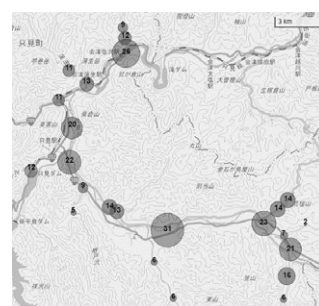
土壌や河川などの環境中には、そこに生息する生物のフンや体液などに由来するDNA（生物の設計図）が存在しています。これを環境DNAといいます。環境DNAを調べることで、その場所にどのような生物が生息しているかを知ることができます。

只見町の魚類を保全するには、どこにどのような種が分布しているのか、正確に把握する必要があります。これを明らかにするために、只見川と伊南川、その支流（田子倉湖より上流は除く）で環境DNA調査を行いました。

わかったこと

全24地点から35種の魚類のDNAが検出されました。また、支流よりも本流で検出種数が多い傾向がありました。検出された地点はイワナ属が最多で、調査を行った全地点で検出されました。イワナ属は只見町を代表する魚種であり、今後、より詳しい分布や生態研究の必要があると思われます。

また、オオクチバスやブルーギルといった国外外来種が検出されませんが、日本の他の地域から移入した種は13種で全体の約半数と多く、これ以上国内移入種を増やさない努力が必要です。一方で、ホトケドジョウ、キタドジョウ、アカザといった希少種が多く検出されました。



▲調査地点と検出種数

「只見町指定天然記念物アカミノアブラチャンの 遺伝的特徴と増殖方法」

森口 喜成、数間 るび（新潟大学）

調査研究の背景と目的

アブラチャンは緑の果実をつけるクロモジ属の落葉低木ですが、只見では赤い果実をつけるアカミノアブラチャンが発見され、町の天然記念物に指定されています。本研究では、アカミノアブラチャンの遺伝的特徴の解明と増殖方法の検討を目的としました。

わかったこと

アカミノアブラチャンの増殖方法について、6月と7月に挿し木と取り木の二種類の方法を検討しました。挿し木処理は、発根させるための環境を整えることに多大な労力を要し、増殖方法として現実的でないと考えました。取り木処理は、枝の樹皮を環状に剥ぎ取り、十分に湿らせた赤玉土あるいは水苔で包み、ビニール袋で密閉した後、アルミホイルで覆って固定しました。この方法では、6月に処理された枝の全てで発根しました。

唱平の4株（天然記念物指定）とふるさと館田子倉の横庭の4株の合計8株のアカミノアブラチャンのクローンチェックを行いました。その結果、8株とも異なる遺伝子を示しました。今後は、アカミノアブラチャンの遺伝的特徴をさらに明らかにしていきたいと考えます。



▲アカミノアブラチャン



▲取り木処理

「只見町における一般家庭の薪エネルギー活用の 経済効果とCO₂削減効果の評価」

大橋 慎太郎（新潟大学農学部）

調査研究の背景と目的

只見町では豊富な森林資源を背景に間伐材を薪エネルギーとして公共施設に活用することで、森林整備と資源の地産地消を同時に進めることが計画されています。本調査では、只見町の一般家庭における薪材の調達方法および薪の年間消費量を調べ、持続的な森林資源活用の可能性と化石燃料代替によるCO₂削減への貢献について評価しました。

わかったこと

町民の方の情報提供による只見町の薪ストーブの利用世帯97戸のうち63戸で聞き取り調査を行いました。その結果、薪材調達方法は、購入による調達が53%、自己調達が47%でした。すべての薪ストーブ利用者は、自身で薪割作業を行っていました。また、自己調達のうち伐採から行う人が30%でした。ストーブの種類は、鋳物が約65%、鋼板が35%でした。薪材樹種は、約67%の世帯が広葉樹、約33%が針葉樹を主に使用していました。薪の年間利用量は家の大きさやストーブの種類などの条件で大きく変わりますが、最大約19m³、最小約2m³、平均約7.5m³でした。

97戸での薪利用量を推定すると、668m³/年となり、これを灯油で代替した場合、年間118ℓ（ドラム缶591本分）と推定できました。これをもとに経済効果やCO₂排出抑制効果を試算しました。また、薪ストーブを利用することによって、生活の質の向上につながる効果があることもわかりました。



「只見町の民具の使用木材種： 非破壊的方法による樹種同定の試み」

鈴木 海都、土本 俊和、井田 秀行（信州大学）

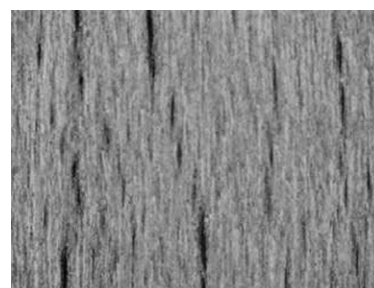
調査研究の背景と目的

只見町には国指定重要文化財に指定されている民具のほか、指定外の民具が約九千点あり、これらの保存と利活用が課題となっています。従来の民具研究は、民俗学的な手法で地域的生活文化などを明らかにしてきました。本研究では新たなアプローチとして非破壊的な方法で民具に使用されている木材の樹種を特定し、民具の種類による樹種選択の違いやその理由を明らかにすることで、民具から見た樹木利用の伝統的知識を歴史生態学的な観点から体系的に整理しようと試みました。これらにより文化財に指定されていない民具に新たな価値を見出すことができると考えました。

わかったこと

コウシキ77点、堅杵72点、横杵43点、カケヤ7点、ヒブセ48点の合計247点の民具の樹種を判別しました。これら樹木は、近辺の山林で入手できる種でした。また、民具の用途に適した樹木を選択していたこともわかりました。例えば、除雪に用いられるコウシキには杵目面が滑らかで曲げ強度が高いブナが9割以上用いられました。また、杵の頭には硬く摩耗に強いイタヤカエデが、柄には強く強度のあるキハダが多く用いられていました。

今後は破壊的な方法も併用する中で樹種判別精度を高めるとともに、民具を学校教育などの場でも幅広く活用できる可能性を探っていく予定です。



▲等倍率（約100倍）で見た杵目（ブナ）

「只見町の魅力発信のために 「街ガチャin只見町」発売

町では、只見町の観光名所や産品などをキーホルダーにしたものをカプセルに入れたカプセルトイの「街ガチャin只見町」(以下街ガチャ)を2月1日から発売しました。

カプセルには、町公式キャラクターの「ブナりん」や風習の「火の用心」などのキーホルダー全10種の内1つが入っており、販売を通して町の魅力発信を行っています。

街ガチャは、町内施設7カ所(インフォメーションセンター、只見スキー場、ただみ・ブナと川のミュージアム、ふるさと館田子倉、季の郷湯ら里、深沢温泉むら湯、森林の分校ふざわ)と役場町下庁舎に設置されています。



▲皆さんもぜひ回してみてください

「只見線車窓ガイドブック 「ふるさとパンフレット大賞」 マックン賞受賞

一般財団法人地域活性化センターが主催する「地域プロモーションアワード2023 第11回ふるさとパンフレット大賞」において、町が発行している「只見線車窓ガイドブック(以下ガイドブック)」が「マックン賞」を受賞しました。

これは、全国の趣向を凝らしたパンフレットを募集し、表彰することで、地域情報発信を支援するために開催されています。

今回受賞したガイドブックは、只見線全線運転再開後に只見線全線運転再開記念バージョンとして発行されたものです。配布については、町HPからダウンロードいただくか、只見町インフォメーションセンターで1,000円以上お買い上げいただいた方にお配りしています。



▲マックン賞を受賞したガイドブック

「只見線復興のために 合同会社メーデルリーフが寄附

合同会社メーデルリーフの酒井治子さん、原田郁子さん、三瓶彰治さん、目黒道人さんが、2月1日に寄附のために役場を訪れました。

同社は「クリアファイル 鉄道風景 画家松本忠さん 只見線シリーズ」や「只見線歴代車両クリアファイル」などの只見線応援グッズを販売しており、その売上から金9万2,319円を只見線の復興応援のため町に寄附されました。

いただいた寄附は、只見線復興のために有効に活用させていただきます。ありがとうございました。



▲合同会社メーデルリーフは、毎年、只見線復興のための寄附をされています

地域住民が安心できる 生活環境を確保するため 福島県に要望書を提出

県道小林館の川線改良促進期成同盟会は1月18日に、県道小林館の川線の冬期交通の確保や、未改良区間の道路整備について、県や県議会に要望しました。当該路線は、生活路線である他、災害時の迂回路などの重要な役割を持つことから、早期整備を強く求めました。

また、一級河川只見川整備促進期成同盟会は2月6日に、整備事業の早期実施や、河川管理の強化などを県と県議会に要望しました。



▲佐藤副知事に要望書を手渡しました



▲受賞おめでとうございます。

教育・文化関係表彰 優秀教職員の部

明和小学校主査 舟木希氏 受賞

全国1位相当に活躍をした児童生徒や学習指導などで顕著な功績を上げた教職員を特別功労者としてたたえる「令和5年度教育・文化関係表彰」において、舟木希明和小主査が優秀教職員に選ばれました。

舟木希氏は、会計事務の効率化・スリム化によって教職員の多忙化解消や、保護者が各種補助金を活用する際の負担軽減に努めました。また、県小中学校事務研究会で中心となり、職員の意識と資質向上に貢献したことなどが認められ、受賞となりました。

自主活動で災害義援金を募る

只見中学生徒会 能登半島地震災害義援金を贈る

只見中学校の生徒会は、2月9日に日本赤十字社を通じて、能登半島地震の災害義援金を贈りました。同日、義援金を贈ったことを、只見中学校に来校した町教育長に報告しました。

生徒会は自主活動として、全校生徒に義援金をつのり、保護者の協力も得ながら、義援金3万4,800円を集めました。



▲義援金を集めた生徒会の皆さん

「想いを継承ぐ！只見のお米を次世代へ」

只見米ブランド協議会 豊かなむらづくり顕彰 受賞



▲受賞報告をした山内征久会長と(有)さんべ農園の三瓶陽太さん

只見米ブランド協議会が、「令和5年度豊かなむらづくり顕彰」を受賞しました。

只見米ブランド協議会では、安心安全な米を生産販売する事業や、次世代の子どもたちに只見町のすばらしさを継承していく事業などを行っています。また、町内外の消費者に只見米の美味しさのPRと地産地消に寄与する展示即売会「只見米フェス」の開催などを行っていることなど、地域農業の振興と地域活性化に大きく貢献していることが受賞につながりました。

【只見米ブランド協議会】

只見の自然環境を守っていく米作りを継続したい、代々受け継がれてきた米作りの大切さを次世代の子どもたちへ継承したいという思いを共有する水稻生産者6者（(株)伊南川、(有)さんべ農園、(株)RISES APEUR、馬場由人、(株)新国農園、(同)ねっか）によって設立されました。

鬼は外 福は内 かるがもクラブ 節分イベント



▲最後は退治した鬼が戻ってきて記念撮影しました

第9回かるがもクラブは2月2日に開かれ、6組の親子が参加しました。

始めに民生児童委員から、節分の由来について解説が行われました。その後、親子のふれあい遊びなどを行っている所に青鬼が現れ、参加者は豆に見立てたボールで鬼退治をしました。鬼に驚き泣き出してしまう子どももいましたが、なんとか鬼を退治して、最後には節分のお菓子や果物を貰いました。

保育所でも鬼退治 3 保育所で豆まきが行われました

町内3保育所は、2月2日に豆まきを行いました。先生から保育所児童に節分や豆まきの由来などの説明が行われた後、お遊戯などしていると鬼がやってきました。

鬼のものすごい迫力に泣き出す児童もいましたが、すかさず、豆に見立てたボールを鬼に当て、鬼退治をしました。只見保育所では、鬼退治後、さくら組の児童が各組のお部屋や職員室などに豆まきをして、邪気を払い、福を呼び込みました。



▲鬼退治をする子どもたち

今年は高校生も参加しました 只見町 E S D 地域成果発表会



▲災害での経験を後世に伝えていくことの重要性を伝えた只見高校生

令和5年度只見町 E S D 地域成果発表会が、2月10日に行われ、町内小中学校と只見高校、株式会社 R I S E S A P E U R の目黒大輔氏、森林の分校ふざわの藤沼航平氏の7組が、E S Dを通して発見した課題やそれに対する対応策、また地域との取り組みなどについて発表しました。

今回からは、只見高校生(自然防災班)が初参加し、総合的な探究の時間を通して学んだ福島・豪雨災害のことや、今後も襲い来る可能性がある災害に備えるために何をすべきかなどについて発表しました。

各発表とも、質疑応答が行われ、発表者、来場者が共に考えを深めることができました。

また、会場内には、只見高校生の自然防災班以外の班の発表も掲示されました。

広報ただみ診療所

飲酒と健康について

朝日診療所 医師 やまなみ ひろあき
山並 寛明



朝日診療所医師の山並です。今回は飲酒についてのお話です。皆さんはコロナ禍の間と比べてお酒を飲む機会は増えましたでしょうか？変わらないでしょうか？

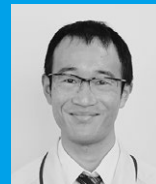
飲酒の害というと、飲んだ時の問題（酔ってけがをする、酒の上での失敗、二日酔いなど）と身体への長期的な影響やリスクの2種類が考えられますが、今回は後者について触れます。多くの人が思い浮かべるのはおそらく肝臓への影響でしょう。肝臓は様々な代謝に関わっています。γGTPなどの肝酵素が高い「慢性肝臓病」を患っていると、脂質異常症や糖尿病、引いては脳卒中などによる死亡のリスクが高くなることが最近注目されるようになってきました。さらに、日常的な飲酒量が多い人ほど大腸がんや乳がんなどのがんの発症リスクも高くなることが以前から知られていて、日本における大腸がんの4分の1は飲酒に関連したものではないかという試算もあります。

アルコールは脳に作用します。習慣的に使用しているとすべての人で止めづらくなり、次第に量が増えがちになります。適正な1日飲酒量は日本酒で1合、ビールで500ml程度と一般的に言われますが（体質的に弱い方はより少量）、お酒を減らしたいけどなかなか減らせないという方はアルコールの脳への薬理学的作用が原因です。そんな人にまずすすめることは、高血圧の人が血圧手帳をつけるように、日々の飲酒量の記録＝飲酒日記をつけてもらうことです。スマホ使用者の方には「うちな～節酒カレンダー」（沖縄県作成）といったアプリがあり、面白いので調べてみることをおすすめします。診療所ではまだ処方例がありませんが、飲酒量を減らす薬というのもし登場しており、お悩みの人は医療機関への相談も一つの手です。お酒は楽しく適量を。

地域おこし協力隊として Vol.111

暖かい冬

只見ユネスコエコパーク推進協力隊 こんどう ゆうた
近藤 友太



只見町に住み始めて3度目の冬を迎えましたが、今年の冬は暖かく、そして雪が少ない年になっています。思い返すと2020年（この頃は栃木県内で働き、週末を只見町で過ごしていました。）の冬も同じように暖かく、雪の少ない年でした。その年の布沢のおんべの際、ご神木を雪ではなく地面に穴を掘って立てた記憶が残っています。

雪が少ないことは暮らす分には楽ですが、こうも雪が少ないとやはり夏の水不足など雪解け以降の影響を心配してしまいます。豪雪地帯であるがゆえ、雪が否応にも只見町の自然や社会の均衡を保つ役割を大きく持っていることを日々の生活の中で感じています。

少し話は変わり、2月上旬の冷え込んだ日の朝、かんじきを履いて3時間ほど堅雪渡りをしてきました。山際の農地や付近の林道を歩いてみましたが、雪の上には多くの動物の足跡が残されていました。タヌキ、テン、シカ（もしくはカモシカ）、鳥類、特にノウサギは多くの足跡があり、糞も残されていました。今年は雪が少ないとはいえ、冬期間は深く雪に閉ざされる中でよく生き延びていけるものだと感心します。そして、これらの動物もまた雪の正負それぞれの影響を受けながら命を繋いできているのだと思います。

昨今、気候の変化によって農作物の栽培適地や野生動植物の生息適地が変化しているということを見聞します。年々感じる気候の変化が只見町の個々の動植物や自然全体に長期的にどのような影響をもたらすのか気になるところです。ひとまずは継続的に身近な環境を観察していこうと思います。

発見!

たかろも / ただみの文化遺産

第12回

児童文学者 山内秋生

しら ゆき
「白雪は銀の砂」「銀色の光を残す」峠の雪

やまのうち あき お
山内秋生（1890・明治23～1965・昭和40）は只見町の二軒在家に生まれた児童文学者です。大倉の比良林公園に、「故郷よ 山川よ つばめ来るころよ」と刻まれた文学碑が建てられています。本名は山内千代吉ですが、児童文学者としては山内秋生（秋生）と名のりしました。



▲山内秋生の肖像
(1925年ごろ)

近代児童文学は、明治時代中期の1890年代は、作家巖谷小波（1870～1933）の『こがね丸』に代表される教訓説話的な「おとぎばなし」の時代でした。そのころ、山内秋生は小林尋常高等小学校を卒業し、巖谷小波が編集する児童文学雑誌の『少年世界』を愛読していました。その縁をたよりに、小波に手紙を出すと入門が許され、上京して小波の書生として住み込み、中学校に通いました。その後、秋生は小説や子ども向けの作品を発表しました。

秋生は、1912年（大正元）に日本初の児童文学団体「少年文学研究会」を始め、1922年の「日本童話協会」、1926年の「童話作家協会」の設立に参画しました。大正時代の児童文学は、「童話」と呼ばれ、芸術性豊かな童話と童謡の児童雑誌『赤い鳥』が創刊されました。秋生の童話は、小波門下の教訓的な雰囲気を残し、『赤い鳥』への発表はありません。

その一方で秋生は、「明治大正の童話界」（1927年）、「日本童話史—明治・大正時代—」（1932年）の論文や、『日本文学大事典』（1932年）「少年文学」を執筆し、『小川未明童話全集』（1950年）を編集しています。現在では、秋生は童話作家よりは近代児童文学の研究者、評論家、編集者としての業績が評価されています。

秋生の初の童話集『螢のお宮』（1925年・大正14）を読んでみましょう。

「ある山の麓に、大きなお池がございました。・・・寂しい秋がすんで、寒い冬が来たら、お池の上には水晶のような氷が張るだろう。その時降り積る白雪は、銀の砂のようにかたまるだろう。」
(「赤い花の咲く池」)



▲『螢のお宮』

「静子の生れたところは、北国の山奥でありました。・・・今年もまた春がきました。三月も四月もの間降り積った雪が、皮をぺろぺろとはぐように、一日々々消えて行って、珍らしくあらわれた地べたには、可愛い片栗の花が咲きました。たんぽぽが咲く、げんげが咲く。こうして、雪は野からふもとへ、ふもとから山へとだんだん追いつめられて、ようやく北の峠のいただきに銀色の光を残すだけになった頃は、野も山もただ一面の花になっていました。」
(「夜明けの星」)

秋生はふるさとの雪と早春の景色を心に浮かべて書いたのでしょう。只見の美しい自然と風土が、児童文学者山内秋生を生みました。只見は童話のふるさとなのです。来年は没後60年になります。



▲『春の野のゆめ』



▲『父のふるさと』



▲『月夜のなげき』

文：久野俊彦
写真：原永円香



ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示情報



第2回テーマ展「身につける民具」

会期：2024年2月6日(火)～2024年6月16日(日)
場所：ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示ホール

入館無料

町民文芸



只見短歌会

令和六年二月詠草

ふるさとは雪祭りとふに我は今テレビで眺む大い雪像を
馬場 八智

久々に数人集ひそれぞれが主役の如く声を張り上げ
目黒 富子

浅雪に陽射しあたたか福寿草五輪の花びら輝きて見ゆ
関谷登美子

舞ひ踊る雪が小さな手に溶けて「ないない」と息子は顔しかめをり
立花 奏音

朝日差す窓際に置きし爪とぎに若猫長くのさばり眠る
新国由紀子

亡き母の命日忘れ元気だよと言ひ訳しつつ仏壇に手合はす
渡部ヨリ子

(出詠順)

只見俳句会

二月定例会

妻の手がいきなりジルバ冬の雷
いつもの医者のいつもの笑顔春隣
修 一

春昼の華やぐ声の古城かな
節分の子らの歓声ありし頃
信

談笑は暖炉を囲む初句会
部活動へたへた帰る寒の雨
都

風雪や一本道を喪の車
ちらほらと少なくなりし年賀状
味代子

学童におやついたたく雪祭り
籠を編む蔓の手さばき春兆す
一 恵

昭和の歌ひとつ聞く間に雪積もり
やれやれと正月四日お粥食う
真理子

白銀の山遠くながめ終戦祈る
寒む空やかからすの群に声をかけ
睦 子

鳴くごとき音なり吹雪ありありと
初旅や朝日橙色放ち
紺 青

早春や小流れ水をあふれしむ
土を踏む土やわらかしあたたかし
礼

長靴や曾孫五人の色違い
地吹雪やころび転びて一年生
一 穂



今月のお知らせ

電話番号

総務企画課	財政係	☎82-5210
総務係	企画係	
町民生活課		
町民税務係		☎82-5110
生活安全係		☎82-5100
保健福祉課		
保健係		☎84-7005
福祉係		
成年後見制度利用促進室		☎84-7010
農林建設課		
農林係		☎82-5230
建設係		☎82-5270
交流推進課		
観光係	商工労働係	☎82-5240
移住交流係		
薪エネルギー推進室		☎82-5220
ユネスコエコパーク推進係		
(ただみ・ブナと川のミュージアム内)		☎82-5963
会計室		☎82-5120
議会事務局		☎82-5300
農業委員会		☎82-5230
教育委員会		☎82-5320
学校給食センター		☎84-7180
只見保育所		☎82-2219
朝日保育所		☎84-2038
朝日保育所		☎86-2249
朝日診療所		☎84-2221
(歯科)		☎84-2612
こぶし苑		☎84-2101
只見公民館		☎82-2141
朝日公民館		☎84-2111
明和公民館		☎86-2111

お知らせ

自動車の移転 (変更・抹消) 登録

自動車税種別割は、4月1日(午前0時)現在の登録名義人である所有者に課税されますので、自動車の売買や転居等をされた場合は次のことにご注意ください。

○手放した自動車の納税通知書が届いた

自動車税種別割は、4月1日(午前0時)現在の登録名義人である所有者(割賦販売等で所有権が留保されている場合は使用者)に課税されますので、移転や抹消の手続きをしないと、もとの所有者に課税されます。自動車を下取りに出したり、他人に譲ったりしたときは、必

ず運輸支局で移転や抹消の手続きをしましょう。
※3月末までに手続きをしないと、翌年度分の税金が課税されます。

○転居して住民票は移したのに、自動車税種別割納税通知書が届かない

自動車税種別割の納税通知書は、運輸支局に登録されている住所(自動車検査証に記載されている住所)に送付されますので、住民票の異動だけでは新しい住所へ送付されません。転居したときは、必ず運輸支局で車検証の住所変更の手続きをしましょう。

※3月末までに手続きをしないと、新しい住所に送付されます。

○車検切れで使用していない自動車にも、自動車税種別割は課税される

車検が切れた自動車でも、登録がされている限り自動車税種別割が課税されます。

壊れて動かなくなったり、使わなくなったりした自動車は、運輸支局で抹消の手続きをしましょう。

抹消された翌月から、月割で課税されなくなります。既に年税額を納めている場合には、抹消した翌月以降の税金は還付されます。

※3月末までに抹消登録すれば、翌年度は課税されません。

【問合せ先】

福島県南会津地方振興局県税部
☎0241-6215213

※登録に関する手続きは、運輸支局や南会津自家用自動車組合、自動車整備工場等にお尋ねください。

只見町議会議員 一般選挙の期日前投票

3月24日(日)は只見町議会議員一般選挙の投票日です。投票日に投票所に行けない用事(仕事、冠婚葬祭、旅行、買い物等)がある方は、次の期日前投票所で期日前投票ができます。入場券をお持ちの上、お近くの期日前投票所で投票してください。

【役場町下庁舎 期日前投票所】

○期間 3月20日(水)～23日(土)
○時間 午前8時30分～午後8時

【朝日公民館 期日前投票所】及び

【明和公民館 期日前投票所】
○期間 3月20日(水)～23日(土)
○時間 午前8時30分～午後5時

【問合せ先】

只見町選挙管理委員会
☎82-51130

税 今月の納期

3月25日までに

納めましょう

●農集排使用料(3月分)



宝くじ助成金で布沢公民館の備品を整備しました



▲助成金で整備したAED

布沢地区では、一般財団法人自治総合センターが行っている「令和5年度コミュニティ助成事業」を活用し、布沢公民館にAEDやエアコン、プリンターなどの備品を整備しました。

この助成事業は、宝くじの受託事業収入を財源とし、宝くじの社会貢献広報事業の一環で、町づくりの推進に役立っています。



広報ただみ町長室

只見町長 渡部 勇夫

◆今年の雪まつりは、柏市の太田市長が只見町にお越しになり、開会式にご出席いただきました。

式典でお祝いのご挨拶をいただくとともに、今年柏市で募集された「只見雪まつりツアー」の応募が例年より遥かに多かったと嬉しいお話も聞かせていただきました。

また、柏市ふるさと交流協会や、只見町ふるさと大使の皆様、雪まつりに参画いただき、新鮮で美味しい柏市産の野菜販売や紹介ブースの設置など大変お世話になりました。

皆様のおかげをもちまして、雪まつりを盛況の中、催すことができました。

更に、雪まつり後の17日に柏市永楽台近隣公園において、永楽台地域ふるさと協議会の主催のもと「只見ふるさとの雪まつりin永楽台」が開催され、只見町からは4tダンブ3台分の雪を運んで永楽台地域の皆様と共に雪のすべり台をつくりました。

当日は700人を超える子どもたちが、雪のすべり台を滑って楽しむとともに、かまくらを作ったり、雪合戦で地域の3世代交流なども図られたと伺いました。今年、柏市でも「只見ふるさとの雪まつり」を開催していただいたことを町民の皆様、知っていただきたいと思います。

改めて、柏市の益々の発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。
末永く只見町との交流をよろしく願っています。
本当にありがとうございます。

町長スケジュール〈2月分〉

- | | | | |
|-----|--|-----|--|
| 1日 | メーデルリーフ代表他来庁、南会津地方振興局長との意見交換 | 19日 | 議会2月会議 |
| 6日 | 一級河川只見川河川整備促進期成同盟会福島県要望(福島市) | 20日 | 只見川電源流域振興協議会定例総会、奥会津五町村活性化協議会定例総会(金山町) |
| 7日 | 当初予算町長査定、議会総務常任委員会 | 21日 | 只見米ブランド協議会会長他来庁、南会津農林事務所長との意見交換、只見郵便局長来庁 |
| 8日 | 南会津地方広域市町村圏組合管理者会、福島県土地連南会津支部通常総会、南会津地方町村会総会、南会津地方環境衛生組合管理者会(南会津町) | 22日 | (株)シンク社長他来庁 |
| 9日 | 只見ふるさとの雪まつり大雪像引き渡し式、(株)ニッコトラスト常務取締役他来庁、柏市長他と懇談 | 25日 | からむし織の里雪まつり(昭和村) |
| 10日 | 只見ふるさとの雪まつり開会式 | 26日 | 福島県市町村総合事務組合議会定例会、ふくしま市町村支援機構理事会、福島県町村会役員会 |
| 14日 | 只見町建設業協会来庁、地域課題検討会 | 27日 | 福島県町村会総会 |
| 15日 | 南会津地域人材育成・交流促進連絡会議(南会津町)、南郷トマト生産組合総会及び販売額12億円達成祝賀会 | 28日 | 南会津地方環境衛生組合議会定例会(下郷町)、南会津地方広域市町村圏組合議会定例会(南会津町) |
| 16日 | 青春18×2君へと続く道試写会(東京都) | 29日 | 只見ユネスコエコパーク推進協議会、一般質問検討庁議、只見町山村教育留学生送別式 |

町民の消息

(1月26日～2月25日届出分)敬称略

■お誕生おめでとうございます

目黒さくら (女/大地・麻伊) 只 見
渡部つぐみ (女/一昭・恵美) 小 川

■おくやみ申し上げます

三 瓶 逸 郎	81歳	長 浜
澤 登 コユキ	103歳	叶 津
古 津 耕 一	70歳	長 浜
菅 家 トモエ	93歳	只 見
酒 井 正 則	73歳	館ノ川
八久保 イチノ	103歳	黒 谷
渡 部 虎 雄	81歳	只 見
小 沼 トミエ	100歳	長 浜
三 瓶 幸 雄	89歳	長 浜
酒 井 三 男	89歳	只 見
目 黒 晃 平	92歳	黒 谷
鈴 木 茂 子	90歳	只 見
菅 家 のり子	75歳	黒 谷
馬 場 弘 子	94歳	長 浜
藤 田 新 也	87歳	只 見

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

令和6年2月1日現在

人 口 3,669 (-7)
男 1,816 (-3)
女 1,853 (-4)
世 帯 数 1,557 (-6)
高齢化率 48.9%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 6 転出 4 出生 1 死亡 10

▽今年の雪まつりは皆様のおかげをもちまして、昨年以上の来場者数を記録し、大盛況のうち無事に終えることができました。ご協力ありがとうございました。今回は写真が多めに掲載しておりますので、ゆっくりとご覧いただければと思います。

▽行事などで、保育所や小学校に写真を取りに行くところ、カメラマンの人だ！と子どもたちがポーズを取ってくれます。子どもたちの素直な姿がとても眩しく感じます。これからも素直な心を持続してください。

(小林)

あとがき

町民憲章

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

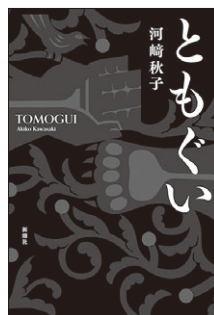
朝日公民館 図書紹介

朝日公民館図書室
☎84-2111

おすすめ新着図書

★ともぐい

【著】河崎 秋子 (新潮社)



死に損ねて、かといって生き損ねて、ならば己は人間ではない。人間のなりをしながら、最早違う生き物だ。明治後期、人里離れた山中で犬を相棒にひとり狩猟をして生きていた熊爪は、ある日、血痕を辿った先で負傷した男を見つける。男は、冬眠していない熊「穴持たず」を追っていたと言うが…。人と獣の業と悲哀を織り交ぜた、理屈なき命の応酬の果ては一令和の熊文学の最高到達点!!

第170回直木賞受賞作品です!

★八月の御所グラウンド

【著】万城目 学 (文藝春秋)



女子全国高校駅伝一都大路にピンチランナーとして挑む、絶望的に方向音痴な女子高校生。謎の草野球大会一借金のカタに、早朝の御所Gでたまひで杯に参加する羽目になった大学生。京都で起きる、幻のような出会いが生んだドラマとは一人生の、愛しく、ほろ苦い味わいを綴る傑作2篇。

第170回直木賞受賞作品です!

○朝日公民館ではリクエストを随時受付しています。読んでみたい本があれば、ぜひリクエストしてください。



(写真・文 吉岡義雄)

イラガ

(学名: *Monema flavescens*)

【チョウ目イラガ科】



▲ イラガの繭

冬に散歩していると、木の枝や幹に付けられた卵のようなものを見かけることがあります。白地に茶色い絵の具でつけられたような模様はなかなかお洒落です。その正体はイラガと呼ばれるガの繭です。

イラガは、幼虫の方が人との関わりが多く、印象深い虫かもしれません。様々な樹木の葉を食べ、果樹や庭木にもよく発生します。また、毒のあるトゲを持ち、触れると激しく痛みます。夏に羽化した成虫は口（口器）が無く、まさに飲まず食わずで交尾と産卵を行います。卵は夏のうちに孵化し、幼虫は晩秋に繭を作ります。繭の中の幼虫はすぐに蛹になるのではなく、幼虫のままトゲを失い、体表面が柔らかくなった状態で越冬します。この状態を前蛹といします。

イラガの前蛹は非常に寒さに強いことで知られており、 -20°C 以下という極めて低い温度にも耐えます。これは前蛹の体内で作られるグリセリンの働きによって、氷点下でも凍結を防ぐことで、体の組織が破壊されるのを防いでいます。このようにイラガは体内で生産される化学物質で厳しい冬を乗り切ります。寒冷な地域で生き延び、子孫を残してきた昆虫の進化には驚かされます。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。
皆様のお越しをお待ちしております。

企画展アーカイブ・プラス「只見の自然を食べる！」

会期：2023年12月2日(土)～2024年4月21日(日)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー